

ずいそう

『サッカーへの想い』

三浦和明



『サッカーへの想い』と大袈裟に書きましたが、私自身はサッカーに本格的に取り組んだことはなく、また、熱烈なファンということもありません。しかしながら、息子を通じて、今年で約8年間、サッカーに関わってきました。その想い（まだ現在進行形ですが）を書かせて戴きます。

学生時代に遊びでサッカーを楽しんだことはありませんが、サッカーに関してはズブの素人である私のサッカーとの関わりは、仙台に住んでいた時に長男がサッカースポーツ少年団へ入団した時から始まり、次男・三男と続き、足掛け約8年になります。

前述の通り、私には3人の息子がいます。残念ながら3番目も「ついて」産まれた為、男3兄弟です。この息子3人が（決して意図したものではありませんが）共にサッカーワールドカップの開催年に生まれました。長男はドイツが3度目の優勝を果たしたイタリア大会の1990年、次男は初めてアメリカで開催された1994年（優勝はブラジル）、そして三男はジダンが活躍しフランスが地元開催で初優勝を遂げた1998年に生まれました。サッカーの上手な3兄弟なら、因縁も感じますが、親の最良目で見ても残念ながら3人ともにセンスがあるとは思えません。たまたま長男がサッカーを始めたので、次男・三男も見てうちに、なんとなくやり始めたのではないかと思います。

スポーツ少年団は、監督・コーチはいますが、父兄（一番重要なのは母親）のサポートがなくては成り立たない団体です。当初はそれとは知らず、練習・試合は監督・コーチ任せで、父兄による練習当番も家内に任せきりでした。何がきっかけかは忘れましたが、父親の参加を求められ、息子と一緒に練習に通うようになり、「練習試合にも審判が必要であり、講習を受けるだけで取得出来るから」と言われ、いつの間にか審判資格を取得し、審判もするようになりました。

サッカー経験のある方をご存知かと思いますが、最低ランクの4級審判は、講習を受け、登録料を支払うだけで12歳以上であれば誰でも資格が取得出来ます。今では、講習もパソコン（Eラーニング）でも可能となっており非常に便利です。簡単に資格を取得出来るのは良いのですが、有効期間は1年間なので、毎年更新講習と登録料が掛かるのが少し不満？（ルールも変

わるので講習は必要だし、協会運営には金も掛かると思いますが。）

また、北海道では冬期間は外でサッカーすることが難しい為、屋内のフットサルに切り替わります。フットサルは5人制での対戦となり、ルールもサッカーとは大きく異なります。よって、審判資格もサッカーとは別にフットサル審判の資格が必要となります。これもサッカーと同様に4級は誰でも取得でき、更新は毎年です。

前述の通り、審判資格の取得は簡単ですが、実際の審判は大変です。4級審判ですから、練習試合を除いてほとんど副審（ラインズマン）しかしませんが、これが中々大変です。オフサイドを判定する為に、最後尾の守備に合わせて動かなくてはならず、上手なチームになるほど、ラインの上げ下げが早く、子どもとは言え同じように動くのは体力的にキツイものがあります。また、判定が得点に絡むこともあり微妙な場合はドキドキします。

フットサルの審判はサッカーに比べてフィールドが狭く、オフサイドも無いので体力的にはサッカー程キツクはありませんが、バックパス・4秒ルール・反則等見るべきことが多いので、気は遣います。審判は（自分にとっては）大変ですが、子どもとスポーツ少年団を通じての触れあいを続けたいと思いますので、スポーツ少年団にいる限りは続けようと考えています。

スポーツ少年団の良いところは、子どもがスポーツを通じて成長することが出来るのが第一ではありませんが、親も充分楽しめることだと思います。試合での我が子の（少ないのが残念な）活躍、チームの勝利を見ることも楽しいのですが、子ども達と同じように体を動かすことで、子どもの成長を肌身で感じる（自分の体力の衰えを痛感することでもある）こと、また、汗をかくことで美味しいビールを飲むことも非常に楽しいことです。親同士、コーチと子ども達のサッカーの試合を肴に飲むことも「また楽しからずや」です。

三男も小5なので、この楽しみも残り1年程になりました。『サッカースポーツ少年団は子どものためならず（自分の楽しみのため？）』老体にムチ打って審判も頑張ります！